

令和 2 年 5 月 11 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03052

研究課題名(和文) 仏教海外布教史の研究

研究課題名(英文) A study on the history of overseas propagation by Japanese Buddhist sects

研究代表者

中西 直樹 (NAKANISHI, NAOKI)

龍谷大学・文学部・教授

研究者番号：20412687

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：明治以降、多くの日本人が移民や出稼ぎなどで海外へと渡航していった。世界各地、日本人の赴くところには、必ず仏教布教の志を懐いた僧侶たちが同行した。彼らは、ときに在外邦人の心の灯火となって海外での布教拠点を築き、あるときは、日本人の海外進出の出先機関としての役割を果たしてきた。

しかし、敗戦とともにその記録の多くが焼却され、その後も関係資料は散逸し、その実態を知ることは難しい。この研究では、日本仏教各派が、満州その他アジア各地で展開した布教の実態を知るうえで貴重な資料を復刻し、当時の新聞雑誌の記事などにも広くあたって、その実体を解明に努めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

戦前における仏教の海外での活動は、日本民間の国際交流のなかでも大きな役割を担っていた。今日、アジア情勢が緊迫化し混迷の度合いを深めるなかで、戦前期の日本仏教の民間レベルでの国際交流のあり方を改めて問うことは、日本仏教の国際化を考えるだけでなく、今後の日本のアジア交流の進むべき道を探る上でも参考になると考える。

学術的に言えば、仏教学や歴史学、さらには異文化交流史、移民史、比較宗教学等の研究領域の発展に及ぼす波及効果は計り知れないものがあり、特にこれまで、ほとんど知られてこなかった資料集成の刊行は、これら研究の進展に資する点が少ないと考えられる。

研究成果の概要(英文)：Since the Meiji era, many Japanese have traveled abroad due to immigrants and migrant workers. Everywhere in the world where Japanese people go, Buddhist priests who had aspirations for missionary escort were always accompanied. They sometimes became the light of the minds of Japanese people overseas and built a mission base overseas, and at one time, they played a role as a visiting agency for Japanese overseas expansion. However, many of the records were incinerated with the defeat, and the related materials were scattered after that, making it difficult to know the actual situation. In this research, Japanese Buddhist factions reprinted valuable materials in order to understand the actual conditions of the missionary practice in Manchuria and other parts of Asia.

研究分野：日本史

キーワード：仏教史 アジア 植民地

1. 研究開始当初の背景

(1) 過去申請課題との関係

日本仏教の海外布教の調査・研究に筆者が関わったのは、2007年に『仏教海外開教史資料集成』ハワイ編(不二出版)を編集したのが最初であった。

この資料集の復刻事業は、「仏教海外開教史の研究」という課題名で2007年から2009年まで、日本学術振興会の科学研究費補助金に採択され、最終年の2009年までに、ハワイ編に続いて北米編と南米編を刊行し、ひとまずアメリカ方面の海外布教の資料集の刊行事業を終えた。

また後に、その収録資料一覧と解題を収めた『仏教海外開教史の研究』(不二出版、2012年)も刊行した。引き続き、2011年から2013年まで、同じ課題名で、科学研究費補助金に採択され、アジア方面の海外布教の資料集の編纂事業に着手し、『海外植民地布教史資料集成』朝鮮編・台湾編(三人社)を刊行した。また別に『植民地朝鮮と日本仏教』(2103年)及び『植民地台湾と日本仏教』(2016年)も刊行した。

ところが、アジア方面の海外布教の資料集刊行と調査には、思ったより手間を要し、満州その他の地域にまで調査研究が及ぶことができなかった。

そこで、2017年から2019年まで、「仏教海外布教史の研究」という課題名で、科学研究費補助金に採択され、満州を含むアジア広域の海外布教の資料集の編纂事業に着手することとなった。

(2) 『海外植民地布教史資料集成』満州・諸地域編の刊行計画

満州・諸地域編では、地域が広域にわたり、敗戦で多くの資料が焼却されたため、その編纂はかなりの困難がともなうと予想された。

しかし、野世英水氏(龍谷大学非常勤講師)、大澤広嗣氏(文化庁宗務課専門職)という編集協力者を得て、助言や資料提供を受けて編集作業を進めた結果、何とか不十分ながら満州・諸地域編全8巻を刊行することの目途がついた。

2. 研究の目的

(1) 先行研究を踏まえて

近年、満州を含むアジア諸地域での日本仏教の活動に関する研究は盛んになりつつあり、関係論文も多数発表されている。しかし、朝鮮あるいは満州・中国のように個別の地域を対象としたものであって、扱われている内容についても宗派や時代に偏りがあり、トータルに仏教教団各派の開教事業の実態をアジア全域にわたって対象として研究は少ない。

(2) 資料集刊行の必要性

このように日本仏教の海外布教事業が注目されつつあるにも関わらず、その関係史料が入手困難なことをあげることができる。

上記のような観点から、本研究では、明治後期以降、戦前までの動向を中心として、仏教教団各派のアジア全域の布教事業の実態解明を目的とし、そのために『仏教植民地布教史資料集成』朝鮮編・台湾編に引き続いて、その他のアジア全域に関する資料を蒐集掲載した満州・諸地域編の編纂・刊行を目的とした。これにより、アメリカ方面を対象とした『仏教海外開教史資料集成』に加えて、アジア方面をも包括した仏教の海外開教事業の資料集が完成できる見込みとなった。

(3) 今後の研究への波及効果

近年、歴史学研究の分野では、日本人移民に関する研究が大きく進展しつつある。学会組織としては、日本移民学会が設立され、移民史に関する資料集も数多く復刻復刊されている。このように、移民史研究への関心が高まりをみせている研究状況にあっても、移民たちの精神的な拠り所となった宗教については、あまり研究がなく、移民史関係の資料集からも抜け落ちているのが実情である。

そこで、仏教教団の開教事業の実態を明らかにすることは、あまり知られていない海外移民たちの宗教に基づく精神的紐帯や精神的いとおもいを明確にすることにも寄与すると考えられる。

また、特にアジア方面の研究は、戦後における仏教者の戦争責任を明らかにするためにも必要であり、アジア諸国との交流が活発化しつつあるなかで、民間レベルでのアジア諸国との今後の関係を探る上でも、こうした研究は大きな意義を持つものだと考える。

このように『仏教植民地布教史資料集成』の刊行は、単に仏教教団の海外布教事業に関する研究の進展に大きく貢献するだけでなく、仏教学や歴史学、さらには異文化交流史、移民

史、比較宗教学等の研究領域の発展に及ぼす波及効果は計り知れないものがあると考えられた。

3. 研究の方法

(1) 資料の保存状況

仏教の海外開教事業は、地域的にハワイ、北米、南米、朝鮮、中国・台湾、南洋諸島や樺太・シベリアなど、広い地域にわたって展開されてきたことから、これに関する資料は膨大な量にのぼる。しかし、その資料は一部の研究機関に分散されて保管されているもののほか、宗派機関や現地の開教区事務所・別院・布教所、あるいは元開教使とその遺族らによって個人的に所蔵されている状況にある。とりわけ、アジア方面に関する資料の散佚は、アメリカ方面にもまして著しいものがある。

日本仏教各宗派は、戦前のアジア布教の事実をいわば封印し、そのあり方を積極的に検証する作業をしてこなかった。常光浩然は、『仏教大年鑑 昭和44年版』（仏教タイムス社刊）のなかで、アジア布教の関係資料の蒐集が困難な理由として、戦災による焼失、戦争責任の追求を恐れた宗門当局による焼却、終戦時の混乱による散佚などの他に、「宗門当局が戦前の資料をまとめる意欲がなく、放置していること」を挙げている。

(2) 資料蒐集・編集作業

仏教海外開教史に関する資料には、刊行された書籍・冊子のほか、教団の記録、開教使の手記やメモ、写真など様々なものが考えられる。記録された言語としても日本語のほか、現地の言語で書かれたものが存在し、所蔵機関も国内外もわたっている。

本研究では、時間や労力の点を考慮して、ひとまず、国内において所蔵されているものを中心に、日本語で出版された資料の蒐集に当たることとした。また、時代としては、特に保存が急務と考えられる戦前の資料を中心とした。

資料の蒐集にあたっては、まず国立国会図書館、大学等研究機関の図書館を中心に資料の複写蒐集を行った。

次に仏教各宗派の本山宗務所や、元開教使やその遺族との協力を得て、資料調査・蒐集のための作業を進めていった。その過程で、海外における開教区事務所・別院・布教所、開教使に所蔵されていることが判明した資料については、連絡をとり、原本又は複写の提供を求めたこととした。

特に満州における本願寺派の機関紙『若草』は、研究協力者である野世英水氏を通じて、そのデータを得ることができた。戦前の満州での布教を知る上で貴重な資料であり、三人社から『仏教植民地史資料集成』（満州・諸地域編）に収録した。

(3) 資料集と著書の刊行

上記の方法により蒐集した膨大な資料を厳選して、三人社から『仏教植民地史資料集成』（満州・諸地域編）として刊行した。

また、資料集成の資料蒐集・編纂の協力者である野世英水氏との共編で『日本仏教アジア布教の諸相』を2020年6月に三人社から刊行する予定である。

このほか、本研究に関連して日本近代仏教史の研究も進め、派生成果として、数冊の研究書も刊行できた。

4. 研究成果

研究成果は、三人社から刊行された『仏教植民地布教史資料集成』（満州・諸地域編・全8巻）にまとめられている。また2008年から2009年にかけて刊行した『仏教海外開教史資料集成』ハワイ編（全6巻）、北米編（全6巻）、南米編（全3巻）、『仏教植民地布教史資料集成』朝鮮編（7巻）、台湾編（6巻）とあせると、全36巻にも及ぶ日本仏教の海外布教史に関する資料集が完成した。今後、近代以降に仏教教団が実施してきた海外布教事業の全貌解明に大きく貢献することになるものと考えられる。

また、そのことを通じて、上記「研究の目的」で述べたように、日本仏教史、移民史、比較宗教学等の研究の進展にも資することになるであろう。

別途、2020年6月に三人社から刊行予定の『日本仏教アジア布教の諸相』では、朝鮮編、台湾編、満州・諸地域編の資料解題（全て中西直樹執筆）に加えて、大連・漢口・ウラジオストク・千島・香港・シンガポール・マライ半島（大連・漢口を除き中西直樹執筆）における布教活動に関する論文を収録することになっている。

このほか、本研究を通じて、日本近代仏教に関する多くの知見を得ることができた。その成果として、別紙に掲出したように、すでに雑誌論文を12件発表し、関係図書も13件を刊行できる見込みとなっている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 中西直樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 海外布教史資料集刊行の意義	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 柴田幹夫編『台湾の日本仏教 布教・交流・近代化』	6. 最初と最後の頁 92～95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西直樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 本願寺派の台湾布教概史	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 龍谷大学アジア仏教文化研究センター2018年度研究報告書	6. 最初と最後の頁 44～55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中西直樹	4. 巻 147
2. 論文標題 西依一六と大谷派改革運動	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 龍谷史壇	6. 最初と最後の頁 1～20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西直樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 戦前期日本仏教のマライ半島布教	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 龍谷大学アジア仏教文化センター2017年度研究報告書	6. 最初と最後の頁 95～105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://barc.ryukoku.ac.jp/research/report/	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中西直樹	4. 巻 60(1)
2. 論文標題 戦前期日本仏教のシンガポール布教	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 佛教史学研究	6. 最初と最後の頁 25～44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西直樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 「明治仏教」研究事始め	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 2018年2月28日付『中外日報』	6. 最初と最後の頁 7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西直樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 「花祭り」の起源	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 2018年4月4日付『中外日報』	6. 最初と最後の頁 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西直樹	4. 巻 57
2. 論文標題 明治期日本人僧侶の暹羅布教	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 龍谷大学世界仏教文化研究論叢	6. 最初と最後の頁 29～38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西直樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 オルコット招聘事業再考 来日130年によせて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 2019年6月27日付『仏教タイムス』	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西直樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 「中外日報」創刊前夜の真溪涙骨 生誕150年に寄せて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 2019年10月18日付『中外日報』	6. 最初と最後の頁 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西直樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 汎太平洋仏教青年大会 その光と影	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 2020年3月6日付『中外日報』	6. 最初と最後の頁 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西直樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 旧児童虐待防止法と西本願寺	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 2020年4月9日付『仏教タイムス』	6. 最初と最後の頁 2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 中西直樹
2. 発表標題 近代真宗布教の展開と課題 特殊布教から信徒伝道へ
3. 学会等名 真宗大谷派教学研究「宗門近代の研究」所内研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中西直樹
2. 発表標題 日本仏教によるアジア布教史概観
3. 学会等名 龍谷大学仏教文化研究所・龍谷大学アジア仏教文化研究センター
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中西直樹
2. 発表標題 戦前期日本仏教のシンガポール布教 昭和初年までの本願寺派の動向を中心に
3. 学会等名 龍谷大学仏教文化研究所・龍谷大学アジア仏教文化研究センター
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中西直樹
2. 発表標題 明治期日本人僧侶の暹羅布教
3. 学会等名 龍谷大学世界仏教文化センター「日本と東南アジアの仏教交流」班研究総括集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中西直樹
2. 発表標題 日本仏教海外布教の歴史的検討 真宗大谷派のアジア布教の検証を通じて
3. 学会等名 真宗大谷派北海道教務所自主勉強会（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 中西直樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 410
3. 書名 明治前期の大谷派教団	

1. 著者名 中西直樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 不二出版	5. 総ページ数 336
3. 書名 明治仏教研究事始め 復刻版『明治仏教』	

1. 著者名 中西直樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 290
3. 書名 新仏教とは何であったか 近代仏教改革のゆくえ	

1. 著者名 岩田真美・中西直樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 373
3. 書名 仏教婦人雑誌の創刊（シリーズ近代日本のジャーナリズム第二巻）	

1. 著者名 中西直樹・林行夫・吉永進一・大澤広嗣	4. 発行年 2019年
2. 出版社 不二出版	5. 総ページ数 324
3. 書名 資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流 第 期チベット仏教との連携	

1. 著者名 中西直樹・那須英勝・嵩満也	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 418
3. 書名 仏教英書伝道のあけぼの	

1. 著者名 中西直樹・野世英水・大澤広嗣	4. 発行年 2017年
2. 出版社 不二出版	5. 総ページ数 3600
3. 書名 仏教植民地布教史資料集成 満州・諸地域編	

1. 著者名 中西直樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 241
3. 書名 明治期の真宗大谷派教団	

1. 著者名 中西直樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 不二出版	5. 総ページ数 337
3. 書名 明治仏教研究事始め	

1. 著者名 中西直樹・川口淳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三人社	5. 総ページ数 464
3. 書名 『欧米之仏教』復刻版 - 大谷派改革運動と神智学 -	

1. 著者名 中西直樹・大澤広嗣	4. 発行年 2019年
2. 出版社 不二出版	5. 総ページ数 292
3. 書名 論集戦時下「日本仏教」の国際交流	

1. 著者名 楠淳證・高満也・中西直樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 260
3. 書名 国際社会と日本仏教	

1. 著者名 中西直樹・能世英水	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三人社	5. 総ページ数 370程度
3. 書名 日本仏教アジア布教の諸相	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----